

# 花みずきだより

私が、花みずきを立ち上げる時に力を貸して下さった方が、ご高齢のため、先日、退職されました。

彼は、「お客様に安心価格で満足していただける葬儀がしたい」という、私の葬儀にかける想いを100パーセント理解し、実践され、花みずきには、なくてはならない方でした。

いつまでも、働いてほしい、その思いは強かったのですが、やはり、新しい人材を育てなければ...

4年の間に、花みずきでは彼の指導の下で、4人のおくりびとが育ちました。そして、今また、2人を育成中です。

この6人が、私のこの仕事にかける思い、又、彼の思いを重く受け止めて、

“人の心を大事にできる”

花みずきのおくりびと”

に、なるために日夜努力をし、精進しておりますので、皆様にもご指導をいただき、育てていただければ幸いです。

## 「どうしよう」から

### 「いろいろしよう」へ

ある日一人の男性が会館にお越しになりました。「父のことで相談したいのですが...」

私はその方をお部屋に案内しました。危篤というわけではないが、父が入院しているのだから、葬儀のことを知りたいとのことでした。詳しくお聞きしますと、父は長年今の場所に住んでいて、家の近所の方に来ていただきたいので自宅近くが良いとの事、どれくらいの方が来てくださるか分からないのでそれなりの広さの式場、そして昔かたぎな人間で威厳のある父親だったので、父親が恥じないように質素な葬儀にはしたくないとの事でした。その他色々とお話を伺い、葬儀の場所・式場施設・費用等について提案させていただきました。一度ご家族様で話し合うために、その日は一旦お帰りになりました。

後日、息子様が不安そうな顔をして会館にお越しになりました。「父が亡くなったのではないのですが、胸騒ぎがするので詳細を決めたい。」とおっしゃられました。以前、お伺いしたご希望を具体的に形にしようと、生前相談の方限定の花みずき会員のプランが希望に添った内容だったのでお勧めしたところ、安心してお帰りになられました。

その後息子様の不安が的中しました。

2009年  
秋号



一週間もしない内にお父様がお亡くなりになったと連絡が入ったのです。病院にお迎えに行くと、息子様と他、数名のご家族様に見守られて、ベッドの上で目を閉じておられました。「この度はご愁傷様でございます。お迎えに参りました。」と言うとその方は、「父をお願いします。」と一言そう言われました。「はい、かしこまりました。」私も一言だけ言葉を返し、故人様を寝台車にお連れしました。

## 「お別れに集中できた」

同乗された喪主様に「どちららにご安置させていただきますでしょうか？」と尋ねますと、「自宅にお願いします。」とおっしゃいました。そして生前使っておられたお布団にお寝かせし、皆様にお線香をあげていただき、葬儀の打ち合わせにはいりました。葬儀内容はご相談時にしっかり話をさせていただいたもので、内容の確認をさせていただきただけでしたが、先に亡くなられたお母様がお湯灌をされたというところで、お父様にもしてあげたいとおっしゃいました。

湯灌の儀とは湯あみをし、次に洗顔・洗髪・顔剃りをし、そして全身を清め、旅支度をして化粧を施す儀式です。湯灌をされた後の故人様は顔がほんのり赤みをおびて、まるでお休みになっているようでした。きれいになった故人様を見て、嬉しそうになさっている皆様の顔を今でも覚えています。

そして、ご遺族様・沢山の会葬者の方に見守られ、お通夜、告別式も無事に終わりました。喪主様から「母の葬儀の時は分からない事だらけで、あつという間に終わってしまったが、今回は事前に相談に来ていた事も有り、父とのお別れに集中できた良い葬儀が出来ました。本当に感謝しています。」とお言葉を頂きました。亡くなられてから葬儀の打ち合わせに入るのではなく、ご家族様のその方を思うお気持ち、どのようにして差し上げたいのかをしっかりと聞き取る事が出来ていたので自分も家族の一員になったような思いでお送りさせて頂きました。

## 「不安」を「安心」に

今回の様に、いざという時にどうしたら良いか慌てない様にと、又、自分が亡くなった時にどうして欲しいかを決めておきたいと、相談に見える方も増えてきています。今までは、まだ亡くならないのに相談に行くことは不謹慎と言われていましたが、その方らしいお葬式や、後で後悔しないようにと考えますと、相談に来ることにより慌てる事もなく安心していただけるかと思えます。

私達も、通夜・告別式だけに留まらず、生前からのお付き合いも大切に出来る葬儀社になりたいと思います。

### 当家喪主様よりコメント

・母の時と違い、事前に相談していたので心配することなく安心して送ることが出来た。  
・結婚式の仲人よりも喪主は、緊張感がありミスが許されないが、失敗しても成功しても全てお任せできるぐらい信頼でき満足できるスタッフでした。



### 花みずき会館内覧会

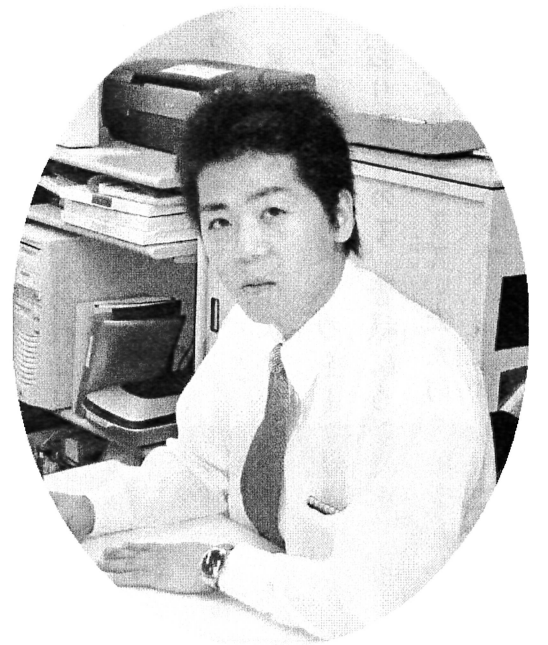
#### 12月6日開催決定



ついに毎年恒例の花みずき会館創立記念内覧会の季節がやってきました。今年は12月6日に開催いたします。クリスマスに色どりを添えるシクラメンや、タオル・日常品の低価販売など盛りだくさんのイベントをご用意しております。ぜひ、ご家族そろってお越し下さいませ。



## スタッフ紹介



こんにちは、葬儀スタッフの仲里と申します。正直なところ：私は、最初から明確な理由や興味を持っていてる訳ではありませんでした。知人に紹介されたのがたまたま葬儀社で、軽い気持ちで行った面接の際の社長の言葉が、私の意識を大きく変える事になりました。

そして最後に「体力的にも精神的にも、大変な仕事だけやる気があるならもう一度連絡を下さい。」その時、軽い気持ちで面接に行った事を後悔しました。家に帰り自問自答を繰り返しました。言葉遣いや礼儀作法など何も出来ないが、本当に自分出来るのだろうか？いくら考えてもわかりませんでした。面接から二日後「今は、何も知らないし出来ないです。でも、ありがとう」と言ってお礼のお葬式が出来る様に頑張りますので、働かせてください。」と電話をしていて自分がいました。そして現在：数多くのお葬式に関わってきて、大切にしている事は「○○人いれば○○通りのお葬式があり、決して同じものはない。だから遺族と一緒にその方の最後に相応しい送り方を考える。」という事です。これからも「あなたに任せて良かった」と言ってお礼のお葬式が出来るように心掛けていきます。

### 本当の生前相談

「家族に迷惑をかけたくなかったので、葬儀について教えてほしいのだけど・・・」

映画「おくりびと」のヒットに象徴されるように、死を正面から受け止め、一度立ち止まって考えてみる機会が増えてきているようです。

「迷惑をかけたくない」「負担をかけたくない」

お話を伺うなかで、ご家族を気にかけるお気持ちも伝わってきます。残されるご家族のことを思ってご自身の葬儀のことをお話しするその方の優しさを感じるのです。

ところで、お葬式というものは誰のために行うものなのでしょうか？まず、第一に故人の為に行うのは言うまでもありません。亡くなった方に思いを込め、仏教では供養を、神道では鎮魂を、キリスト教では追悼を行います。

一方で、お葬式は家族のために行うものでもあります。人が亡くなって一番悲しむのは家族です。その家族が故人とお別れするための儀式がお葬式であるからです。

残されたご家族が、お式において最も気にかかることのひとつとして、「故人はどの様なお式を望んでいたのか？」ということがあります。生前相談を葬儀社としていたにも関わらず、故人と遺族が話し合いを持つ機会がなかったばかりに生前に想いが伝えきれず、ご遺族が立ち尽くしてしまうのです。

「本当に茶毘でいいのだろうか？ お花を手向けてもいいののだろうか・・・？」

葬儀というものは、非日常的な出来事であるだけに、何か特別なキッカケでもないとなかなか家族の間でも話題にしづらいものですが、例えば、テレビなどで著名人の葬儀などのニュースを見ている時に「私が死んだら、好きな花に囲まれて逝きたいなあ。」とか、何気なく撮った写真を見て「これは遺影にしようどいい。」などと冗談交じりに話すことがあったりします。ご家族との何気ない会話の中で、なんとなく話題にのぼるそれぞれの死生観をもう少し踏み込んで話し合うことができれば・・・。

「死んだら、葬儀でこの曲を流してほしいな。」  
「えっ、この曲になんか思い入れでもあるの？」  
「実は、まだ若い頃な、結婚する前の話だけど・・・。」

愛する家族のために遺されるべきは、なにも費用やお式の形式だけではありません。相談の場をたくさんさんの思い出を伝える場とするのであれば、生前に葬儀の話をする事でも、まんざら悪いことでもないのではと思います。

### 自身の想いを綴る「遺言ノート」

#### (参考) エンディングノート



※ご希望の方には花みずき会館にて一冊 1050 円で販売しております

- 自分らしい葬儀を計画するポイント
- 家族と一度は事後のことを話し合ってみる
- お別れの際に連絡して欲しい人の住所録
- お気に入りの写真
- お気に入りの曲
- 会葬者に向けたメッセージをしたためる

### 編集後記

・表面記事を作成する為に、葬家様に掲載の許可をいただきました。大変感謝しております。ありがとうございました。

・この花みずきだよりをよりよいお便りにする為、皆様からご意見・ご要望をお待ちしております。



川波



亀島